

山田みやこの活動報告

平成30年9月7日(金)

第20回記念 日本認知症グループホーム全国大会

～地域包括ケアシステムで求められる認知症グループホームの役割～

栃木県総合文化センターにて開催されました

基調講演

「介護をめぐる課題と展望」

講師 厚生労働省老健局長 大島一博氏

2000年の介護保険導入時の目標は、介護サービスの市場を作ることと、介護を社会化することだった。時が経過する中で、2010年代以降人口減少により地域での支え手が減少。少子化克服のため、待機児童対策・働き方改革・子育て費用の軽減などを実践。さらに、人生100年時代と言われ、生涯現役・健康長寿など、給付と負担のバランスを取るために、全世代型社会保障へと移行。本格的高齢化社会となり、生活支援・予防・介護予防・健康づくり支援は必須。医療介護の専門団体・専門職との連携が重要となる。認知症になっても大丈夫な社会は、住民・ボランティア・自治体・介護福祉関係者・医療 保健関係者・教育関係者・各種経済活動団体など多くの関係者の総力によって実現できる。

特別講演

「極上の時間の過ごし方」

講師 作家 下重暁子氏

人生の終盤は極上の時間を過ごしたい。そのためには聞き上手になり、若い頃の楽しい話を引き出すこと。楽しみは自分で探す、人間相手の仕事は楽しい。また自分を一番知らないことが多い。自分はどういう人間なのか、自分をよく知ること。個が一番ないのが日本人。フランス人は個を重視している。個性とは人と違うこと。人生の最後は個性的に。みんな違ってみんな良い。知識だけではなく感性を磨くこと。一生をいかに楽しむか下重氏の生き方は素晴らしい。82歳になるが年を感じたことはないという。これからも楽しく生きるという言葉でしめた。

